

第27回研究発表会

地域で取り組むアカミミガメ防除<sup>+</sup>  
～捕獲すること・その後のこと～

和亀保護の会 代表 にしほりともこ  
西堀 智子

近年、侵略的外来種<sup>++</sup>が定着・繁殖し、在来の生態系を破壊しつつあります。その原因の一つとして、ペット動物を輸入した業者やそれを買った飼い主が、管理しきれずに捨ててしまうことが挙げられます。自然に放すことで罪悪感が少なくなるのかもしれませんが、在来の生物が絶滅の危機にさらされてしまうこともあるのです。

日本各地で防除が進められていますが、侵略的外来種を完全に排除することはとても難しいことです。ではどうするか。外来種を低密度管理して影響を最小限にし、あるべき自然を守っていくしかありません。そのためには、地道に防除を続けていくことが大事です。

ここでは東播磨地域のため池協議会で行っているミシシippアカミミガメの防除活動の事例を挙げて、いかに上手く防除を継続しているかを紹介いたします。

■究極のエコ捕獲「日光浴罟」

通常カメの捕獲はかご罟で行います。しかしカメをおびき寄せるためのエサが必要ですし、度々の見回りも必要です。お金も手間もかかります。加古川市の「峠池を考える会」では、アカミミガメが開けた場所で甲羅干しする習性を利用して、日光浴罟を使うことにしました。エサは不要です。いったん浮かべるとしばらく放置しておけます。アカミミガメ以外のカメは罟にほとんど入りません。気長に待つと都合のいい時に回収できます。

ただし問題点の一つ。日光浴罟は簡単に手に入らず、高価なことです。ならば自分たちで作ろうということになりました。最初はカメが入らなかったり罟が沈んだり失敗も多かったのですが（写真1）、逆にこの試行錯誤の過程が楽しく、

地域の人々の交流につながりました。そうして完成した日光浴罟の作り方は県民局がマニュアル化しました。他のため池協議会にも広がり活用されています。

■アカミミガメをごみにしない

アカミミガメを捕った後は、冷凍庫で苦しませないように処分します。しかしその後が厄介なのです。これまでは焼却



写真1 「峠池を考える会」自作日光浴罟1号機、最初の失敗作



写真2 「天満大池ため池協議会」アカミミガメのさばき方を学ぶ

されることが多かったのですが、大きなエネルギーを使いますし、予算も必要です。また命に対する敬意も表せません。そもそもアカミミガメにしてみれば、勝手に外国から連れてこられて、悪者にされて殺されてしまうわけです。せめてもその供養の意味も込め、食用や肥料にして命をつなげていくのが望ましいのですが、生業としてやっていこうとすれば採算が合いません。しかし地域住民が作業し、利用するなら問題はありません。

アカミミガメの肉はヘルシーで鶏肉に似て美味しいのです。しかし甲羅をはずして皮を取り除く作業は大変で、しかも可食部が少ないのです。とはいえ外来種問題や生命倫理の問題を考える材料として、啓発イベントなどで活用するには大変有効です。

加古川市の「寺田池協議会」ではイベント「和亀保護大作戦」で、「富木地区環境保全協議会」では毎年の池干しの際に、アカミミガメ料理を作って外来種問題を学びます。稲美町の「天満大池ため池協議会」ではアカミミガメのさばき方講座が盛況でした（写真2）。

堆肥化についてはわずかなスペースを利用して作ります（写真3）。これでカメの亡骸の処理は一気に進みます。材料は解凍したアカミミガメ、地域の草刈りや清掃で集めた雑草や落ち葉など。堆肥の山にコルゲート管を差し込んで酸素を供給すれば、繰り返し作業も不要です。臭

いも心配なく、条件が良ければ3週間～1か月で完成します。牛糞堆肥並みの窒素やリンを含み、鶏糞堆肥並みの速効性のある肥料となります。それらは地域を飾る花畑やグリーンカーテン作りに利用されます。皆で楽しみながら、アカミミガメを慰霊することにもなります。

■防除に地域づくりの視点を！

アカミミガメに限りませんが、長期にわたる防除を可能にするためには、①お金がいらぬこと（予算があるのははじめだけ）、②負担にならないこと（ハードな作業は志をくじく）、③楽しいこと（マンネリズムは作業の敵）、④得になること（ご褒美は力のもと）、の条件を満たすことが必要です。そして、水辺周辺の地域単位で防除すること。東播磨地域で防除が上手くいっている秘訣です。

もちろん長く続けていけば、時には活動のテンションが下がることもあるでしょう。しかし「みんなでいい地域にしたい」という地域づくりの視点を持って防除のノウハウを引き継いでいけば、新たなアイディアも生まれるでしょうし、再び活動を盛り上げることもできるでしょう。また捕獲から処分、有効利用までを自らの力でトータルに実行できるようにしておけば、他のさまざまな問題にも対応可能な「地域の力」となるに違いありません。



写真3 「西牧ため池協議会」アカミミガメ堆肥づくり

<sup>+</sup> 防除：侵入を防いだり、侵入したものを取り除いたりすること  
<sup>++</sup> 侵略的外来種：他の地域から移入した外来種のうち、急に増殖し、生息分布を拡大させることで移入先の生態系等に深刻な被害や悪影響を与える生物